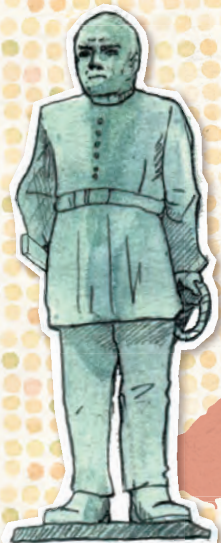


リコー三愛グループ

三愛会 会誌

No.148 2011



特集

知ってる?!

都道府県の 成り立ちと県民性

都道府県のルーツを解き明かす
あなたの故郷の意外な横顔とは?!

●今号のトピックス●

社長インタビュー▶リコーリース 有川貞広社長
企業価値の増大に努めます!

私のおすすめスポット▶全国各地の歴史に残る名城・城跡をご紹介
日本の名城・城跡スポット

仲間たち・集う▶東日本大震災後にボランティアに参加した
グループ社員の方たちに聞きました

私たち、ボランティアに行ってきました

知ってる?!

都道府県の成り立ちと県民性

監修 八幡和郎氏 (評論家・徳島文理大学教授)



江戸時代には幕藩体制がとられ、幕府や大名による領国支配・分割統治が行われていましたが、明治新政府は、統一的な制度の下で政府中心の強力な近代国家をつくるべく、政治の刷新を進めました。そうした中で誕生したのが都道府県です。

今回は、都道府県の成り立ちと名前、そして、今話題の「県民性」について特集しました。皆さんの性格は、出身地や育った地域の県民性と一致していますか？

※都道府県の成立と県民性については、『47都道府県うんちく事典』を基にまとめました。

出典：八幡和郎著『47都道府県うんちく事典 県の由来からお国自慢まで』(PHP文庫)

※《読者》は、グループ社員の皆さんに前号の読者アンケートで聞いた「出身地について知っていること」

「出身地の県民性をどう思ったか」の回答です。

(イラスト：すぎもろサイキ)

八幡和郎氏プロフィール

1951年 滋賀県大津市生まれ。

1975年 東京大学法学部卒業。同年 通商産業省入省。80～82年 フランス国立行政学院(ENA)留学。その後、沖縄総合事務局勤務、国土庁長官官房参事官、通産省大臣官房情報管理課長などを歴任。著作活動のほか、『朝まで生テレビ!』などのテレビ出演を通じて、霞が関を代表する論客として活躍。97年通産省を退官し、評論活動を展開する。2004年から徳島文理大学教授。

著書に『本当はスゴイ国? ダメな国? 日本の通信簿』『坂本龍馬の「私の履歴書」』(以上 ソフトバンク新書)、『京都の流儀』『〇×でわかる なるほど! 中国史』(以上 PHP 研究所)、『大商人の金言』(知的生き方文庫/三笠書房) ほか多数。



3府302県から
スタート

1868（明治元）年、明治新政府は政体書を発令し、東京、京都、大阪など主要地を「府」、旧天領や旗本、寺社領などを「県」、大名領国を「藩」（江戸時代には藩という名称はあまり使われず、このとき正式名称となった）としました。

しかし、諸藩は旧来のまま大名による統治が続いていましたので、新政府は1871（明治4）年に「廃藩置県」によつて藩も県として、3府302県を設けました。これがその年のうちに整理されて、北海道、沖縄以外が75府県にまとめられ、1876（明治9）年には3府35県に落ち着きました。ただし、その後も微修正は続き、1888（明治21）年、現在の形に収まったのです。

て、まず重要だったことは、各県の具体的な領域を決めるに当たった大きさが極端に違つては困るということでした。江戸時代の各藩の領地はそれぞれの大名の功績の大きさにより私有財産として与えられたものですから、規模も領域

の決め方もまちまちでした。

そこで、新政府が注目したのは、律令時代の日本の国でした。かつて、秦の始皇帝は春秋戦国時代に割拠した国々を滅ぼした後、全国をほぼ同じ大きさの郡と県（日本と違って郡の下部組織です）に分けました。ナポレオンもそれをまねて、フランスの全国土をほぼ同じ面積の県に分けたのです。

始皇帝の郡の数は36（後に48）で、明治政府もそのくらいが中央集権的に行政を進めていくのに都合のよい目安らしいと考え、古代の律令制における60余国の復活を基本にしたのだと思います。

ただ、律令制の下での国は始皇帝やナポレオンの郡や県ほどにはサイズがそろっておらず、交通事情の変化もあるので、若干変更が加えられて、北海道と沖縄を除く45都府県のうち、旧国と一致するものが13、複数の国が合併したものが11、一つの国から分割されたものが7、国の境を超えた調整が行われたものが14となっています。

県庁所在地の半分が
最大藩の城下町

都道府県庁の所在地に選ばれた都市は出来合いの都市がほとんどで、全く新しい都市が建設されたのは札幌と宮崎だけでした。

その主流は城下町と天領の中心地で、最も多数を占めたのは県内最大の藩の城下町（盛岡、秋田、仙台、水戸、宇都宮、富山、金沢、福井、名古屋、津、和歌山、鳥取、岡山、松江、広島、山口、高松、徳島、高知、松山、福岡、佐賀、熊本、鹿児島）の24都市）で、大分、岐阜、山形もかつてそうだった所です。

それに次ぐのは幕府直轄の重要都市だった所で、東京は幕府所在地、大阪も関西における徳川氏の居城としての性格を保持していました。甲府、静岡は大名の移転や廃絶の後に天領になりました。京都、奈良、大津、神戸、長崎は重要な港町です。

最大藩の城下町、天領の重要都市というケースには、いずれも全国的な交通の要衝にあり、また県

の公共施設として使用可能な建築物も多かったので、スムーズに県政がスタートしました。それに対して、これら以外のケースにはいずれも特殊な事情がありました。青森、千葉、宮崎は県の統廃合に際して地域間バランスをとるための選択であり、浦和、長野、那覇は、他に有力な候補があったにもかかわらず、県庁として適当な建築がなかったために選ばれたのです。

いったん決まった県庁所在地は明治17年の栃木県庁の宇都宮移転以降は変更されていません。

都道府県の名前は、ごく一部の例外を除いて、都道府県所在地の都市、ないし、その所属する郡（昔は大都市も郡に属していました）の名前から来ており、例外は『古事記』の歌からとった愛媛、それに北海道と沖縄のみです。

旧藩が新政府側に属していたかどう
うかで県庁所在地や県名が採用され
たという説がありますが、それは正
しくありません。戦前にあるジャー
ナリストが当てずっぽうで主張した
議論が広く流布したものであると思
われます。

県民性はなぜできる

県民性はどうして生まれるのでしょうか。いくつかの要素を挙げると「自然環境」「経済条件」「歴史的な事情」「文化的な伝統」などが考えられます。

自然でも一番基本になるのは気候です。静岡のような気候が温暖で恵まれた所では、気分ものんびりと開放的になりますし、寒い雪国ではじつと我慢です。

風景も性格に影響を与えます。桂浜の荒波を見て育った土佐の人は野心的になるし、京都東山の優しい山並みを毎日見ていれば、少なくとも表面は穏やかな人になるでしょう。

経済条件ということでは、例えば「奈良の大仏商法」という言葉がありますが、観光客が多く来る所では、それを相手にうまく立ち回って商売することが容易なだけに、真面目に努力するより楽をしようという面がないわけでもないといわれます。

歴史的な事情では、例えば、大きな藩のあった所では秩序が重ん

「藩」から「都道府県」へ

太字：都道府県名
細字：旧国名

じられ、若干、権威主義的で官尊民卑です。前田100万石の石川県、島津73万石の鹿児島県、伊達63万石の宮城県などがそうです。それに対して、小領主しかない所では、自分たちで全てを守らなくてはなりませんから、集落単位での団結心が強くなります。それから、県民性というのはいったん評価ができてしまうと、それに合わせるという傾向もあるようです。土佐の女は酒が強いといわれるので、高知出身の女性はお酒を飲まないわけにはいかなくなりますし、京都出身の女性はいしと

やかに振る舞わざるを得なくなります。創業者・市村清のふるさとである佐賀出身の男性は『葉隠』の古武士然としていないと期待を裏切ってしまうのかもしれない。***

それでは各都道府県の成り立ちと県民性について見ていきたいと思ひます。



北海道・東北地方

東北は陸奥と出羽という二つの大国にしか分けられていませんでしたが、明治になって羽前、羽後、岩代、磐城、陸前、陸中、陸奥の7か国に分かれ、それを交通事情を考慮して微調整し、現在の6県になりました。

北海道は北海道開拓使や札幌、函館、根室の3県体制などの時代を経て、1886年に現在の形になりました。

北海道

北海道は、江戸時代まで蝦夷地（松前藩領／幕末は一部が天領）と呼ばれていたものを、1869（明治2）年に現在の名前にした。

明治になって天領が開拓使の管轄になって、松前藩領が青森県に編入されたり、3県に分割されたりと紆余曲折を経て、明治19年に北海道庁が設立され、現在の形になった。全国各地から移住民が集まっていたので、言葉は標準語に近い。

北海道民は古い風習にとらわれな

いのが何よりの特徴で、そのためか離婚率も全国の中でかなり高い。

《読者》おっとりした人が多く、時間にもそれほど追われていない。

せいか、歩くスピードも遅い。



青森県

青森県は東が旧南部領、西が津軽領である。県庁所在地が津軽藩の居城があった弘前ではなく、津軽藩支配下の港町であった青森に置かれたのは、県が誕生したときに北海道の一部も領域に入っていたことが理由の一つである。

県民性を表す言葉としてよく言われる「じよっぱり」は、辛抱強く意地っ張りといった意味である。

岩手県

岩手県は旧南部藩の南半分と旧伊達藩の北部から成る。南部氏は鎌倉時代に甲斐から乗り込んできて、豊臣秀吉の天下統一後に、県庁所在地となった盛岡に城下町をつくった。

県民性は、総理を5人も出していることから分かるように、真面目で、正義感が強く、一度方針を決めたら良くも悪くも頑固であるといえる。

秋田県

秋田県はだいたい旧出羽国の北半分だが、北東部の鹿角周辺だけは陸奥に属していた。

県庁所在地の秋田市の郊外には、古代から北の守りとして出羽柵や秋田城が築かれた。関ヶ原の戦いの後、この地に入った佐竹義宣は城を構えて地名を久保田としたが、明治になって郡の名をとって秋田と改称された。

我慢強いが、派手なことも好きで、一度決めたら頑張るという県民性。お祭りや民謡も好きである。

《読者》のんびりで、太っ腹。体格が大きい。



宮城県

仙台はもともと伊達藩62万石の城下町で、明治になって東北経営の拠点として官公庁や東北帝国大学、第

二高等学校などが設けられた。

気候は東北各県の中では比較的穏やかで、県民性も『東北にしては、粘り強さがないといわれることが多い。都会人としての誇りもある。』

《読者》温厚で、控えめで、協調性があり、争い事を嫌がる。

山形県

山形県は旧出羽国の南半分、県庁所在地の山形は幕末には5万石だが、戦国時代には最上氏の本拠だった。厳しい気候ではあるが、大地の豊かさを感じられる。

県民性も勤勉で誠実だが暗いというわけではなく、おせっかいと言われるのは、古来、関西との交流が盛んだったことも原因の一つだろう。

福島県

県の成立に際して、いったんは平（浜通り）、福島（中通り）、若松（会津地方）の3県が置かれたが、1867年に現在の形にした。3地域それぞれ、気候や土地柄が異なる。

県民性は、少し頑固で正義感が強く、人情に厚いといわれるが、それは信州にルーツを持つ会津武士の気質で、中通りや浜通りの人は東北でも最南端にあるためか、明るく開放的な人が多い。

関東地方

関東地方が鎌倉時代以来、近畿圏（関西）と首都機能を分担するようになったのは、関東平野という広い平野からなることが最大の理由で、周りを険しい山岳と波荒い海に囲まれた天然の要塞であったことも、統一的で強力な政治・軍事勢力を成立しやすくなりました。

明治維新のときには「関東・東北の反乱を防止するためにあえて敵地に乗り込む」という公家たちの判断で東京遷都となり、関東が政治の中心になりましたが、「徳川家に江戸城を返したくない」というのも本音でした。

栃木県

栃木県は、下野一国から成る。栃木県と宇都宮県が合併したとき、県庁は利根川水系の舟運都市であった栃木市に置かれたのだが、その後、宇都宮に移された。県名は栃木市に県庁があった時代の名残である。少し野暮ったいところがあるが、人が良くて飾らないという県民性を、県民自らが出したがる。

群馬県

現在の群馬県は、上野一国。県名は県庁所在地である前橋付近の郡名である。高崎は碓氷峠へ通じる街道沿いの要地にあり、小田原攻めの後、井伊直政が城郭を築いた。当初、県庁もここに置かれるはずだったが、陸軍が軍事上の要地として確保したので、前橋に行ってしまった。

陽気で楽天的で義侠心に富んだ県民性で、空っ風とかかあ天下も名物。《読者》言葉がきつく、性格は淡白で飽きっぽい人が多い。かかあ天下は女性が働き者という意味です。

茨城県

茨城県は常陸に下総の古河周辺が加わった。水戸は常陸の中心であり、江戸時代に御三家の一つである水戸家35万石の城下町となった。県名は茨城は水戸の属する郡名。

水戸黄門が創った「水戸っぱ」氣質は、骨っぽく、怒りっぽく、理屈っぽいことで知られる。



埼玉県

埼玉県は武蔵国の北半分から成る。埼玉県庁ははじめ大岡藩2万石の城下町だった岩槻に置かれる予定で、県名も岩槻が属する埼玉郡から来ているが、いざとなると県庁に当てることのできる適当な建物がなかったため、宿場町であった浦和に県庁が置かれた（2001年、3市合併により「さいたま市」となる）。

埼玉県人は都市近郊の内陸地域らしく、比較的温和で親切とされる。



《読者》海なし県なので海への憧れが強い。東京にコンプレックスがあり、東京人より流行に敏感。

東京都

徳川家康が江戸を選んだのは豊臣秀吉の助言といわれている。

東京都は武蔵国の一部。武蔵にあった東西南北の多摩郡のうち、東多

摩郡だけを23区に入れて、残りを総称して三多摩地区と呼ぶ（明治26年までは神奈川県の一部）。

東京府が改称されて東京都になったのは1943年のことで、それまでは現在の23区は東京市だった。

人情家でおせっかい、物事をあまり深く考えない、といったところが典型的な江戸っ子だが、典型的な東京人かというと、歴代の知事たち（美濃部亮吉、鈴木俊一、青島幸男、石原慎太郎ら）で、それぞれタイプが違うように見えて、都会的でそれなりの風格がある良き市民というイメージは共通している。

《読者》もともと地方出身者の集合体なので、共通性が見つけにくく、一人ひとりの個性が多種多様である。また多種多様の個性が認められるのが東京の魅力だと思う。

千葉県

千葉県は上総、安房、下総の大部分から成る。利根川は今は千葉と茨城の県境を流れて銚子の北方で太平洋に流れ込んでいるが、江戸時代の中ごろまでは今の隅田川に流れ込んでいて、武蔵と下総の国境であった。千葉県人は海洋国らしく陽気で豪快な人が多い。

《読者》東京に近いせいか都会人意識

が強く、地域の風土を大切に思う
気持ちが少ないように思う。

神奈川県

神奈川県は相模国^{さがみ}全部と武蔵国の一部である横浜、川崎周辺から成るが、重要都市だった横浜に政府の出先機関としての県庁を置きたいので、ここの県域になった。そのためか、東京との直結感覚が強い。

神奈川というのは横浜の旧名で、幕末になって急に脚光を浴びた。江戸に近い港として日米和親条約の調印がここので行われ、やがて日本の外に向かっの玄関口の一つとなっていた。

「くじゃん」はもともと山梨の方言で、横浜には甲州や信州から出てきた商人が多かった。

《読者》横浜出身者は出身地を神奈川県ではなく横浜と言い、川崎出身者は川崎ではなく、神奈川県と言う。ハマッ子は好奇心が旺盛で、流行に敏感。東京とは違うと思っている。



山梨県

山梨県は甲斐^{かい}一国。人は石垣、人は城」という『武田節』の歌詞で知られるように、戦国時代の武将・武田信玄が豪壮な城を築かなかったの

は、地形や国人の団結で国を防衛しようという考え方だったからである。県民性としては、勤勉で商才にたけ、主従関係を大事にするが、意外にミスターなところもある。

東海地方

日本のヘソを名乗る所はいくつもありますが、一番説得力の高いのが刃物の産地として知られる岐阜県関市。その理由は、ここに日本の人口重心（日本列島を一枚の板だとして、しかも日本人全員が同じ体重だとしたとき、下から持ち上げてバランスがとれるポイント）があるといわれるからです。

東西方言の境界、電気の周波数の境界（東の50ヘルツと西の60ヘルツ）などからも、東海地方が日本の真ん中であることは間違いないです。



静岡県

静岡県は、駿河^{するが}、遠江^{とわらぎ}、伊豆^{いず}の三国から成る。静岡市付近は江戸時代のほとんどの時期に城代が置かれ、もともと府中、あるいは駿府^{すんぶ}と呼ばれてきたが、明治になり付近の賤ヶ丘^{しずが}にちなみ静岡と改名された。

県民性は開放的でほどほどに新しいもの好きと言われるが、遠江地方では経済観念が発達し、すばしいという面もある。

《読者》穏やかな気候のせいか、のんびりしている。人が良くて、居心地がよい。

愛知県

愛知県は尾張^{おわり}と三河^{みかわ}から成る。県名の愛知は県庁所在地の名古屋が属する郡名。

愛知県は戦国の覇者、信長、秀吉、家康の生誕の地である。300諸侯の半数以上だけでなく、その主な家臣も愛知出身だったから、長い間、

日本の支配階級は愛知県人がほとんどだったといえる。

堅実で閉鎖的だといわれるが、流行を追わず、秩序を重んじるということでもある。金銭感覚がシビアといわれるが、借金の返済などはきちんとする。無駄遣いはしない半面、嫁入り道具や結婚式の派手さはよく知られている。

《読者》東の尾張（信長・秀吉の出身地）と西の三河（家康の出身地）はお互いに対抗意識を持っている。

岐阜県

岐阜県は美濃^{みの}と飛騨^{ひだ}から成る。県庁所在地の岐阜は織田信長の城下町で、信長が中国の故事にならって岐阜と命名した。江戸時代には尾張藩領の商業都市だった。

県民性は、とっつきが悪いところがあるが、合理主義的だといわれる。



三重県

三重県は伊勢、伊賀、志摩と紀伊の一部が含まれる。県名は一時県庁が置かれた四日市が三重郡に属するところからきている。皇室の祖先とされる天照大神を祭る伊勢神宮は内

宮と外宮の二つの神社に分かれるが、いずれも遷宮という習慣で20年ごとに建て替えられる。

伊勢商人は近江商人と並び称せられるが、より堅実。温暖な気候もあって、穏やかでがつがつしない県民性はサフリマン向きであるといわれる。

北信越地方

歴史的には現在の福井、石川、富山、新潟の4県で律令制の下における北陸道を形成していましたが、現在では新潟を除くことが多いようです。しかし、気候風土からいっても新潟は北陸そのものであるし、北陸新幹線が金沢まで延伸すると、4県、さらには長野までの北信越を一ブロックとしてみる意味がまた大きくなってくると思われます。

新潟県

新潟県は越後と佐渡から成る。古代の越後国府は京都に近い上越市の海岸付近にあり、上杉謙信の春日城も同じ上越市の内陸部にあった。

新潟市付近は信濃川下流の好位置



長野県

を占め、18世紀に西廻回船の寄港地になってから本格的に発展し、幕末には幕府領となり、安政の通商条約で五つの開港地の一つとされた。県民性は真面目で忍耐強く、人を押しのけてもという風ではないとされ、東京の米屋、銭湯などは新潟県人が多い。

長野県は信濃一国。最初は南部は筑摩県に、北部は長野県に分かれていたが、筑摩、長野両県合併の際には、筑摩県庁のあった松本と両県の中間に当たる上田が候補とされた

が、合併の前夜、筑摩県庁が放火で焼失し、犯人が上田人とされたことから、長野が漁父の利を得た。

県民性は真面目で理屈っぽく、協調性は薄い。質実という表現がぴったり来る感じがする。

《読者》おらかな性格の人が多い。

福井県

福井県は越前と若狭から成る。いったんは滋賀県と石川県に編入されてしまったが、1881年に現在の形になった。

古代の国府は中部の越前市付近だったが、戦国時代に朝倉氏が福井の郊外の一乗谷に館と京都風の都市を営んだが、柴田勝家が北之庄城を築城し、江戸時代に福井と改名。

県民性は柔軟で新しもの好き、経営感覚にも優れ、貯蓄も好きといわれる。



石川県

石川県は加賀と能登から成る。1876年には今の富山県全部や福井県の北部を含む日本一の大県だったが、1883年までに今の形になった



富山県

富山県は越中一国である。1871年には西部の一部が七尾県、残りが新川県だったが、いったん越中全体が富山付近の郡名をとった新川県となり、さらにそれが石川県に併合されたが、1883年に独立して富山県となった。

県民性は、「越中の人、陰気にして智あり」(『人国記』)とあるように、勤勉で真面目な生活を送り、素直だが積極的に他人の理解を求めていくということはない。こうした性格は特に公務員などには向いていて、大学進学率、東大などへの合格率も高い。

近畿地方

「全ての道は京都に通じる」といわれるように、近畿地方は地理的にも日本列島の心臓部に位置し、日本国家発祥の地でもあります。「近畿」が「都」の近く、という意味であるのに対して、「関西」という場合には、西日本の中心で東京のライバルである大阪から見た感覚であるといえましよう。

滋賀県

滋賀県は近江^{おうみ}一國から成る。大津は天智天皇の都が起源で、滋賀郡に属したのが県名になった。近江商人のモットー「三方よし」(自分によし、相手によし、世間によし)が示すようにプラグマティズム的で、建前にとらわれず柔軟であるし、ぜいたくはしないが中流意識は高く、パソコンなどの新しい消費財の購入にも積極的な面を持っている。

京都府

世界でも類例を見ない、千年の都の魅力を持つ京都。繊細な感覚に裏付けられた日本文化の良さは京都の自然が育てた。

京都は山城国だが、山陰道の丹波と丹後も一緒に京都府になった。

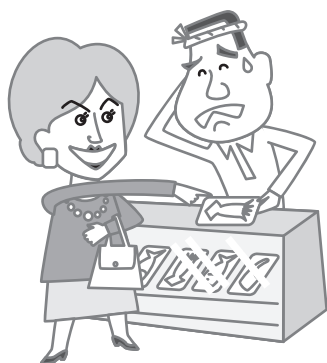
京都人は個人主義的で、都会人。物腰は柔らかく、言葉も優しいが、本心に打ち解けようとはしないところもある。

大阪府

《読者》伝統を大切にするが、閉鎖的で表と裏の顔があるといわれる。

豊臣秀吉が大坂城を築いたことで、近代の大阪の歴史が始まった。大坂夏の陣以降、徳川家の西日本における本拠となる。明治になって「大坂」は名称を「大阪」と変えた。大阪人は現実的で、見栄や格好をつけるために実際的な効用を犠牲にしようとは思わない。一方で、人情を大事にするという面もある。

《読者》せっかち。ボケ・ツッコミの文化。值切る。大阪人は大阪が大好き。



兵庫県

兵庫は神戸の旧名。国際的でホスピタリティー豊かな美しい町・神戸は、優れたセンスの住民を生み出した。文化はインテリっぽく、しかも新しもの好きでしばしば反権力的。

神戸や阪神間は摂津の国に属するが、姫路城のある播磨には快活で豪快な気風がある。

《読者》表面穏やか、内面せっかち。派手ではないが、おしゃれ。地域によって県民性が分かれる。

奈良県

奈良県は大和^{やまと}一國。1887年に

中国・四国地方

奈良時代に畿内から近いかどうかで、近国、中国、遠国に全国を分けたのですが、やがて山陰・山陽のことを中国地方というようになりました。

中国と四国との間に、瀬戸内海という大河のような波静かな内海があったことが、日本という国の発展に大きく貢献したといえます。

岡山県

岡山県は備前^{びぜん}、備中^{びっちゅう}、美作^{みまさか}の三国から成るが、昔は広島県東部の備後^{びんご}とともに吉備^{きび}の国といわれ、古墳時代から栄えた。神武天皇は大和征服

の前の3年間、この地に住んで勢力

大阪府から分離した。大阪の「食い倒れ」、京都の「着倒れ」に対して、奈良の「寝倒れ」という言葉もあるが、他人を押しつけるでもないことなく、比較的なんびりとしている。

《読者》のんびり、おおらか

和歌山県

旧国名の紀伊国の語源は木ノ国が定説、和歌山はもともと若山と表記されることが多かったが、明治になってより優雅な和歌山になった。

気質は南部と北部で違い、南部は陽性で義理人情に厚く豪快、北部は大阪に近いことから都会的ですがしこいなどといわれる。

を蓄えたといわれる。

岡山城は1573年に宇喜多直家がここに移って、備前の中心になった。

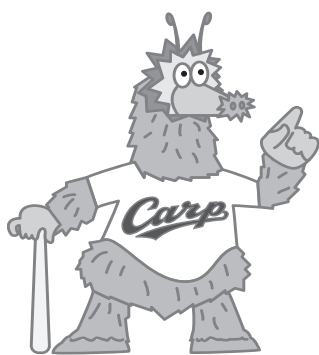
県民性は明るく前向きだが、調子が高すぎるといわれることもある。

広島県

広島県は安芸と備後の二国から成る。平安末期に国司として安芸に在任した平清盛は宮島の厳島神社を修築し、瀬戸内の難所だった音戸瀬戸を改修するなど、この地に大きな足跡を残した。

県民性は陽気で楽天的、遊びと酒が好きと言われる。人情家だが行き過ぎることも。

《読者》おほかで、スポーツ好き。地元のスポーツチームや広島出身の芸能人も大好き。



山口県

防長二国（周防・長門）は維新の立役者だったにもかかわらず、毛利藩の居城があった萩は県庁所在地にならなかった。幕末に保守派と改革派の政争の中で改革派は山口により、藩の政庁も山口と萩を行ったり

来たりして、改革派の最終的な勝利によって萩は維新を待たずして廃城になった。現在の山口県庁は、幕末の政庁を引き継いでいる。

維新後、長州人は権力中枢を占め、県出身の総理も8人と最多である。地縁というだけでなく、理屈っぽく筋を通したがるのは政治家向きといわれる。

鳥取県

鳥取県は因幡、伯耆の二国から成り、鳥取市は因幡の中心である。江戸時代に二国を領した池田氏は岡山

の池田家の分家だが、初代の母親が徳川家康の娘だったので、石高は岡山より多かった。県民性については、辛抱強く、謙虚だが、積極性に乏しいなどといわれるが、その理由は日照時間が短くて暗い気候にあるらしい。確かに華やかなイメージの人は少ないが、人情家で味わいのある人が多いのも確かである。

島根県

島根県は出雲、石見、隠岐の三国から成る。島根という県名は、県庁所在地松江周辺の明治以前における郡名。

松江市は、関ヶ原の戦いの後に入

城した堀尾吉晴が築城した地で、江戸中期以降、結城秀康（徳川家康の次男）の系統に属する松平公19万石の城下町として栄えた。

県民性は寡黙で忍耐強いなど鳥取と似たところも多いが、より強い地域的なまとまりと信心深さ、したたかな強さを感じる。

香川県

旧讃岐。香川県の名は県庁所在地である高松が香川郡に属することからきている。秀吉の四国征服後に讃岐の国主になった生駒親正が東讃の中心である高松に築城した。西讃の中心は丸亀で、生駒親正は県西部の拠点として丸亀城も築城した。善通寺は弘法大師空海の生誕の地。県民性は堅実で教育熱心。

愛媛県

県域は旧伊予国と一致し、県名は『古事記』に「伊予は愛比姫の国」という記述があることからとった。松山周辺は古来、伊予の中心で、関ヶ原戦いの後に藩主となった加藤嘉明は、道後平野の真ん中にそびえる勝山に城を築き、松山と改めた。県民性はおっとりとしたマイペース型などといわれている。

徳島県

旧阿波。豊臣秀吉の重臣・蜂須賀小六の息子である正勝は猪山に築城し、字を風格があるよう滑山と改めた。それを江戸時代に付近の地名の一つをとって、徳島とした。

徳島人は大阪に近いこともあって商売人的で勤勉、個人主義で自分にも人にも厳しいといわれる。



高知県

旧土佐。関ヶ原の戦いの後に領主となった山内一豊が高知城を築城。山内氏は幕末まで変わることなくこの地を治め、特に幕末の藩主であった山内容堂は実力者として大きな役割を果たした。幕末維新には藩士たちだけでなく、坂本龍馬など郷土と呼ばれる準武士階級も活躍した。県民性を語るときに「異骨相」という言葉が有名だが、強引で頑固で一途であることをいう。

《読者》住みやすく、お酒が強い。

九州・沖縄地方

日本の歴史をひもとけば、九州は関西、関東と並ぶ中枢地域だった時期もあります。日本が国内だけを見る時代には九州は軽んじられましたが、アジアをにらんだ時代には常に特別な位置づけを獲得してきましたのです。沖縄は、九州とは異なる歴史的な経緯や文化を築いてきました。

福岡県

福岡県は筑前、筑後、豊前の北半分から成っている。博多は港町として栄えた。関ヶ原の戦いの後に領主となった黒田長政は博多の西に城を築き、かつての領地、備前国福岡にちなで城下町の名としたが、明治になって福岡と博多を併せ市制を敷き、県庁が置かれた。

古くから栄えてきた土地で海外との交流も盛んだったところから、開放的で、時流に敏感な県民性である。《読者》男性が強く、女性も芯が強い。

負けず嫌い。お酒が強い。

佐賀県

佐賀城は戦国時代の領主龍造寺氏の居城であった村中城を鍋島氏が全面的に改修したもの。佐賀の名は所在地が佐嘉郡であることからとった。「武士道」と云ふは死ぬ事と見つけたり」とは佐賀藩士だった山本常朝の『葉隠』にある言葉だが、尚武の

精神盛んなこの県は自衛隊に入隊する若者の割合が高い。

長崎県

長崎県は肥前の西半分と壱岐、対馬からなる。島の多い県で海岸線の長さは全国で最大。長崎は江戸時代には唯一の西洋への窓口になった。

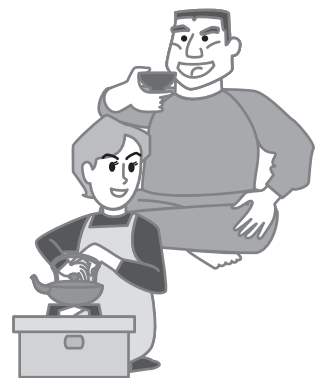
長崎の人は、大きな藩がなく、外との交流も盛んだったことから、九州男兒的な雰囲気とはひと味違っている。開放的であくせくしない。

熊本県

熊本県は肥後国と同じ領域。熊本は古くは「隅本」と書き、加藤清正が築城の際に文字を改めたとされる。「肥後もっこす」という言葉に象徴されるように、県民性は頑固で男性的である。

大分県

大分県は豊後の国と、豊前国の東半分から成っている。大分には国府



が置かれ、もともと府内と呼ばれていたが、明治になって大分郡に属することからそれを町の名前とした。県民性は地味でぶっくらぼうだが、誠実で温かい。

《読者》言葉遣いが荒い。語尾が強いので、怒っているように聞こえる。

宮崎県

宮崎県は日向一国。最初、都城県と美々津県に分かれていたが、それをまとめるとき、県庁所在地となる新都市を建設した。そこが宮崎郡に所在したこと町の名前とした。県民性は、男性はのんびり、女性

は活発で行動的といわれる。

《読者》「てげてげ気質」(ざっくり、大ざっぱ)、「日向時間」(のんびり)といわれる気質の人が多い。

鹿児島県

鹿児島県は薩摩と大隅からなる。

古くは桜島のことを鹿児島と呼んでいたが、それが郡名になり、さらに都市名になった。室町時代の初期から島津氏の本拠が置かれたが、現在の城が築かれたのは関ヶ原の戦いの後。

鹿児島県人は、不言実行を是として「議を言うな」と理屈先行より行動を重んじる気風で、新しい思想を生むより、流れを現実化するのが得意だ。

沖縄県

12世紀に源為朝の子という伝説を持つ舜天王が琉球王国の始まり。首里が都で、那覇はその郊外の町だった。沖縄というのは、本来は、本島だけのことを指す地名だ。1879年に最後の王が東京に連れ去られて、沖縄県が置かれた。

県民性は、物事を突き詰めて考えずに適当なところで折り合いをつける傾向が強く、仲間内で助け合うというか、かばい合うところがある。このため、

居心地がよいが、ややルーズで厳しさには欠ける面もある。

